

BTN 記者ベイタウン近く の高齢者福祉施設を訪ねる

ベイタウンから利用できる高齢者福祉施設がどこにあるかご存知ですか? 「もちろん知っている」という方もいるでしょうし、「まだお世話になるには時間がある」と他人事と思っている方もいるでしょう。誰でもいつかは利用する可能性がある高齢者福祉施設取材する機会を得たのでご紹介いたします。【板東】

今回取材したのは、昨年4月にオープンしたばかりの高齢者介護サービス総合センター『セイワ美浜(磯部2-21-2)』です。取材に協力して下さったのは、同施設職員で、市から「在宅介護支援センター」を委託されている鈴木和子さんと、同じく同施設職員で6番街にお住まいの角幡玲子さんです。

『セイワ美浜』の特徴は、特別養護老人ホームだけでなく、デイサービスセンター、ショートステイサービスセンター、生活支援ハウス、グループホームなどを備えた総合福祉施設であることです。また、プライバシー重視のため、以下にご紹介する何れの施設も完全個室となっています。

◆デイサービスセンター

在宅介護者が通いで利用する、通所介護施設です。ベイタウンからの利用者もいらっしゃるそうです。利用者は、こちらで主に昼食、入浴、血圧・体重測定、レクリエーションなどのサービスを受けます。利用申し込みは、ケアマネージャーを通して行います。



デイサービスセンターの浴室(上) ケアハウスのリビング(下)



◆ケアハウス

介護型高齢者居住施設で、介護が必要な方(要支援以上の認定)が必要最小限の介護を受けながら、自活に近い生活を送ります。各部屋毎にキッチン、トイレがあるほか、1ユニット8名毎にリビングダイニングルームもあり、可能な人は自分で洗濯をしたり、庭いじりを楽しむこともできます。希望者自身が直接施設に申し込みます。

◆生活支援ハウス

千葉市から委託を受けて運営されている施設で、60才以上の独居もしくは夫婦のみの世帯、事情により家族からの援助が困難な方等が入居します。申し込みは区役所福祉事務所に相談します。

◆グループホーム

認知症と診断されていて、身体的には問題のない方たちが、1グループ7人のユニット毎に家族のような暮らし方をする施設です。希望者は直接施設に申し込みます。

◆ショートステイ

文字通り短期入所し介護を受ける施設です。普段デイサービスを受けていて、何らかの事情で数日間宿泊が必要となったときなどに利用されます。利用申し込みは、ケアマネージャーを通して行います。

◆特別養護老人ホーム

要介護1から5の認定を受け、自宅での介護が困難な65歳以上の方を対象とした介護施設です。10名で構成されるユニットが10あります。申し込みは直接施設に行きます。

現時点で約300名の入居待ちがあるそうです(他施設との併願が多いので、

実質は150名ほどではないか、とのこと)。また、利用者の平均年齢は、他施設も含めて、83才とのこと。

各施設をまわってみての感想は、どの施設も完全個室であるため、プライバシーが守られ、暮らしやすそうに見えたことです。また、どの施設も「ユニット」をうまく配し、ユニット単位での生活や介護を考慮しつつ、ユニット間や施設間の交流スペースも設けられ、建物の中庭やまわりにも散歩道や池があり、恵まれた敷地環境が有効に活用されています。

同施設ではこれまで近隣の磯部第二中や千葉西高校、磯部高校などからの傾聴ボランティアや、保育園からの慰問など、地域との交流を進めてきましたが、今後も地域密着での活動を進めていきたいとのことでした。施設内には、「地域交流スペース」という多目的空間が設けられ、落語やハワイアンなどの催しを通じて施設利用者と近隣住民が交流しているそうです。

市の福祉プランでは、地域でもっと気軽に利用できる高齢者向け施設(活動)として、「ふれあい・いきいきサロン」といった制度がありますが、ベイタウンでは、通常中学校区毎に設置される社会福祉協議会(社協)の「地区部会」がまだ設置されていないため、その受け皿がありません。自治会連合会では、「福祉委員会」を設置し、民生児童委員、



右の写真、中央が鈴木さん、左が角幡さん

シニアクラブ、青少年育成委員会などと協力しながら「地区部会」設立の準備を進めたいとのこと。本誌でも、

今後もベイタウンの福祉事情として、その動きを随時ご紹介して行きたいと思います。



セイワ美浜の中庭



【連絡先】

セイワ美浜：043-270-0311
在宅介護支援センター：043-270-0311
美浜区福祉事務所：043-270-3150

プルタブを2年半かけて集めました

海浜打瀬の会 車いすを美浜いきいきプラザへ寄付

海浜打瀬の会（海浜打瀬小学校の保護者と教職員の会）では、海浜打瀬小学校の子ども達と一緒に、アルミ製のプルタブを集めて車椅子を購入し施設に寄付するという活動を、平成15年から行っています。

どのようにプルタブを集めているかと言いますと、まず子ども達自身が、校内ポスターを作り、放送で呼びかけ、各家庭で集めたプルタブを学校へ持ってきています。もう1つは海浜打瀬小校区のマンションにご協力をお



お披露目式がおわって、早速みんなで試乗してみる子ども達

願いして、リサイクルゴミ置場にプルタブを収集する箱を置かせて頂き、役員の保護者が回収しています。学校には、用務作業員の三輪先生が作って下さった、誰からも見ることができる透明のアクリル製のプルタブ回収ケースが図書室の横に置かれ、プルタブはそこへ少しずつ溜まっていきます。いっぱいになるとダンボール箱に20kgずつ梱包し別室へ。そうして約2年半こつこつ溜めたプルタブが、初めて車椅子1台購入できるだけに集まりました。

山形県にあるリサイクル会社では標準タイプのスチール製の車椅子を破格の値段で届けてくれます。そこで一台購入するのに必要なプルタブの重量は280kg。プルタブを送る前には、不要なものを取り除く作業を行いました。大勢の役員のお母さんが各々に、広げたプルタブの山に磁石を潜らせ、「宝さがしてみたいね」と想像を巡らせながら、スチールのプルタブ、くぎ、画びょう、輪ゴム、ベルマークなどを取り出し、全部で307kgのプルタブを送ることができました。

この活動を始めた頃は、「危険ではない



初めて購入できた車椅子

か?」「やっても集まらないのでは?」などの心配があったそうです。でも、1つでも多く集めようと学校以外の場所でも機会あるごとにプルタブを回収して下さった保護者の皆さん、児童の祖父母の方や授業の一環で集めたというお隣の打瀬小学校の皆さんからの思いがけない寄付といった、たくさんの人たちのお力も戴き、こんなに早く車椅子を寄付できることになりました。

車椅子は2月8日に海浜打瀬小学校で子ども達にお披露目し、2月16日に「美浜いきいきプラザ」へ寄付しました。これからも少しずつ、多くの方から海浜打瀬小学校にプルタブが集まってくることを願っています。

【投稿：海浜打瀬の会】

ベイタウンのバス事情を検証する！

バス路線が「タウンルート」と「マリンルート」に分かれてから、はじめてバスに乗ってみた。ふだん駅までは、自転車か徒歩なので、ずいぶん久しぶりの乗車だが、バスが街の中を走り始めてから驚いたのは、青空駐車車両の多さと、バス停のまん前にも停めているマナーの悪さだった。

以前、消防車に乗って街の中を走ってみた時にも駐車マナーの悪さには閉口したのだが、今はちょっとひど過ぎる。街開き以来、京成バスと平和交通の工夫と配慮によって、ベイタウンは路線と本数の面でずいぶんと恵まれた環境である。しかし肝心の住民がせっかくのバス環境を破壊しているような気さえしてきた。毎日運行されているバスの運転手さんたちはどう感じているのか全ルートを回りながらインタビューしてみた。

会社帰りや、土曜、日曜を利用してバスに

乗ってみた結果、時間帯にあまり関係なくいつもの場所にいつもの車がとまって迷惑になっているという簡単な構図が見えてきた。バスの運転手さんにとってベイタウンは極めて走りづらい場所のようだ。

京成バスも平和交通もベイタウン内を運行する運転手さんを一定期間固定するようにしているので、毎日運行している運転手さんはこの状態に慣れてしまった感があったが、たまたま日曜のシフト調整で運転していた運転手さんはベイタウン内の状況を「他に比べてマナーもルールもない異常な状態」と極めて厳しく評価していた。

各街区が消防活動スペースを確保するために設置している看板や、連合会が交差点の角に駐車させないために置いているパイロンがある場所はそれでも多少はマシである。ところが、そうでない所は両側に車が駐車してい

るので、バスどころか乗用車でさえ中央の白線をまたいで走ることになり、すれ違いが難しい。そんな場所でバス同士が鉢合わせするとバックすることになるので大変である。

道路の幅が片側2.5mなのに対して、バスの両ミラー間の幅は2.1～2.25m、長さは11mなので、下の写真のようにバス停のまん前だけ空けたつもりでも、バス停の10m以内に停められると寄せられない。特にベイタウン内を走っているバスは、ほとんどが低床仕様なので前後のタイヤの間隔が長く、小回りが聞かない。

運転手さんたちは口をそろえて、「片側に駐車車両がある場合、その反対側にとめないで欲しい」、「交差点や曲がり角、バス停前などは遠慮してほしい」と言っている。

打瀬小学校前を通りながら運転手さんがつぶやいた。「この前を通るときは、いつ車の間から子どもが飛び出してくるか恐怖を感じます」

【金】



バス停の前だけは空けて停めたつもりでも



実際にバスが走るとこうなってしまう、対向車線にはみ出すことに



路肩にバスを寄せられないので、車いす用のスロープを出せなくなってしまう

「富士見通り」が「バレンタイン通り」に!?



1/30 付けの読売新聞を見て驚かれた方は多いのではないかと。『商店会からの要望で『富士見通り』を『バレンタイン通り』と命名することが決まった』と報道されていたのだ。続いて2/2の朝日新聞でも、「市がバレンタイン監督に名前の使用許可を求め、監督は快諾した」と報じられた。これを見てあわてたのはベイトウン自治会連合会（以下、連合会）だ。実は連合会も、千葉市から打診を受けていたが、連合会長からは「住民の大多数がそれを望んでいるとは現状受け止めていないし、簡単にOKとは言えない」と回答し、慎重に進めるようにと千葉市に伝えていたからだ。

情報が錯綜するなか、ネット上では「何故住んでいる住民自身の了解も得ずに勝手に決めるのか」とか、「富士見通りはダサイ。バレンタイン通りで別にいいんじゃない？」など、いろいろな意見が飛び交った。

連合会では、急遽、2/12(日)の連合会定例会の場で住民を交えて協議することとし、掲示板などで呼びかけ、「住民意見聴取会」を開催した。ここで明らかとなったいきさつは、以下の通りだ（幕張ベイトウン商店会（以下商店会）会長を含め、出席者の説明のまま）。

① 11/21（パレードの翌日）、スポニチ紙上に、「バレンタイン通り」構想の記事が掲載された（記事上では、ファン組織である「ベイトウン・マリナーズ・クラブ」が市に申請する見込み、とある）。

② 12/5、千葉市建設局土木部路政課（以下、千葉市路政課）より、連合会会長と商店会会長のそれぞれに、「パレードには市長も感動した。記念となるように、道路に愛称を付けないか？」と照会があった。連合会会長は「簡単にはOKと言えない」と回答。商店会会長も「検討する」と回答した。

③ 12/14、商店会役員会にて、「地域活性化と商店会振興につながるならば」と賛成を決議。

④ 12/21、千葉市路政課より商店会に再び連絡があり、名称変更のための「要望書」を提出して欲しい旨要請があった（この連絡は商店会に対してのみ行われ、千葉市から連合会への連絡はなかった）。

⑤ 1/10、同日付けで施行された千葉市の「道路愛称名付与要綱」に則り、商店会会長名で千葉市長へ要望書を提出（実物は連合会ホームページ参照。要望書上では、パレードのあった交差点や道路にバレンタイン監督の名を冠したいとあるが、「富士見通り」を「バレンタイン通り」にして欲しいという直接的な表現はない）。

⑥ 1/30、読売新聞記事掲載。

⑦ 1/31、商店会会長と商店会広報担当が千葉市路政課と面談（千葉市の要請による）。この席で「ロッテ球団からも、監督本人からも富士見通りをバレンタイン通りとすることです承が取れた。監督からは英語表記は

富士見通り沿いの街区のあちこちにある銘板（計34箇所）。名称変更をすると、これらも全て付け替えることに？

Valentine Wayとして欲しいと付帯条件が付いている。これらを商店会として承認して欲しい」と要請があった。

⑧ 2/8、商店会役員会にて承認を決議。千葉市には口頭で「連合会にも打診して欲しい」と付帯条件を付けた。

以上の経緯からは、住民や商店会主導ではなく、千葉市の主導によりことは進み、前掲の新聞発表につながったようだ。なお、⑤の要綱では、「商店会及び町内自治会等」が要望を出せることになっている。

経緯はともあれ、現時点では千葉市も連合会も商店会も「決定事項」とは判断しておらず、バトンは連合会に預けられている形だ。住民に与えられた「命名権」により愛称を付けよう、というせっかくの楽しいイベントであるはずが、このような手順前後で混乱してしまったことは残念ではあるが、今後、どのような形で議論を進め、前向きに決着させるのか、「この街の住民の合意形成をどう諮るべきか？」という大切なテーマでもあり、注目される。

【板東】

打瀬小のトイレ掃除ボランティアを続けて10年、清水さん古川さん、ありがとうございました。

清水康さん（7番街）と古川澄子さん（ミラリオ）がついにこの春、“卒業”を迎えることになった。

お二人のことについては、2002年6月号（No.61）のベイトウンニュース、「Who's Who」でも紹介したが、打瀬小学校の週1回のトイレ掃除を、清水さんは足かけ10年、古川さんも9年続けてきた。このたび10年を区切りに、今年“卒業”を決めたという。



古川さん（写真向かって左）と清水さん

もともと、打瀬小学校が住民に呼びかけた校内の掃除や校庭の草取りのボランティア募集に、清水さんが応募。誰もやり手のなかった「トイレ掃除」をかって出たのがきっかけだった。そのときだけでは十分にきれいにすることができず、同居する娘さんに話したところ「じゃあ、掃除に行っておいたら」という勧めもあり、週1回のトイレ掃除通いが始まった。その後、頼もしい相棒古川さんも参加。

「私の場合は孫が入学したばかりだったから、孫も使うトイレをきれいにしたいと思っただけ。古川さんは打瀬小にお孫さんがいるわけでもないのに、本当にえらいわ」と清水さんが言えば、古川さんも「清水さんが一生懸命されるから、私も頑張っただけ」とお互いを讃え合う仲の良さ。二人で支え合ってこ続いたのだろう。

週1回、洗濯や食事で忙しい朝の時間をやりくりして、1～3年生までのトイレ8ヶ所

を2時間かけてきれいにする。健康には自信があるというお二人だが、けっこうな重労働である。しかし、「トイレが打瀬小で一番きれいな所」と言ってほめてくれたある校長先生の言葉や、「このおばちゃんたちがトイレを掃除してくれているんだよ」と子どもに教えられて「ありがとうございます」とお礼を言ってくれる親の言葉に、疲れも癒された。毎年もらう子どもたちからの感謝の手紙もうれしい。

「子どもたちが気持ちよく使えるように」という優しさを常に持ち続けて通った10年におよぶトイレ掃除ボランティア、本当にお疲れさまでした。

今回、お話しを伺って、お二人の功績はトイレを掃除するだけではなかったと強く感じた。親でも先生でもないお二人は子どもたちにはかけがえのない存在だったのでないだろうか。スリッパの脱ぎ方が悪ければ叱り、あいさつをしなければ遠慮なく注意し、トイレの使い方を教えてくれ、休むことなく黙々と人の嫌がる仕事に取り組んできた…お二人の姿を見て育った子どもたちは幸運である。怒られたことのある子どもはもっとラッキーだ。「教育」には門外漢の記者にも、お二人はまちがいなく素晴らしい教育者であったとわかる。残念ながら、今のところ後を引き受ける人はいないのだそうだ。

【佐藤】

打瀬中学校3年生 第51回全国読書感想文コンクールで 毎日新聞社賞を受賞

「読書が好きですか」と聞くと「はい。大好きです」と即座にきっぱりとした強い口調の答えが返ってきた。読書感想文の受賞者へのインタビューなので半ば期待していた答えなのだが、それにしてもこの気持ちのこもった答えは印象に残った。

阿部泉希(みずき)さんは打瀬中学校3年生。昨年の夏休みから年末にかけて行われた「第51回青少年読書感想文全国コンクール(自由読書の部)」で毎日新聞社賞を受賞した。順位はつけられないコンクールだが、実質的には全国第二位。指導した佐藤先生によると「打瀬中学校ではもちろん初。千葉県でも中学生の部門では初めてかもしれません」という快挙だ。

泉希さんが選んだ本は第二次世界大戦中の中国での日本軍の731部隊のことを扱った児童文学書「屋根裏部屋の秘密」(松谷みよ子著)。中学生の女の子が、祖父が化学兵器を開発していた731部隊に所属していたことを知り、戦争について考える内容の本だった。日本人として持つ戦争の罪を、参戦した世代から自分たちの世代がバトンとして引き継いでいることを表現したという感想文のタイトル「手渡されたバトン」は泉希さん自身がつけた。

泉希さんはこの本を小学校2年生の時に最初に読んだ。それまでも本を読むのは好きだったが、ジャンルや目的も決めず、ただ手当たり次第に読んでいたそう。しかしこの本に出会ってから、松谷みよ子さんの本を読むようになり、読書に目的が出来てきたという。泉希さんにとってこの本との出会いは、

本を読むことの意味を教えてくれるものだったようだ。だが、読書感想文ではそのことについては書かなかった。読者として自分とそう変わらない年代の少女の戦争に対する考え方や気持ちを描くことで、与えられた字数は埋まってしまった。やはり本の内容に心を動かされ、それが読書感想文という形で表現されたのだろう。

受賞については、「まだ賞のシステムや価値がよく分からないので実感はありません」という。実際インタビューしていても、大きな賞をとった驚きや喜びが感じられず拍子抜けするほどだった。ただ、授賞式に本の著者である作家の松谷みよ子さんが招かれ、直接会って話ができて、ずしりと重いブロンズのトロフィーと和紙に書かれた賞状をもらったとき、はじめて大変な賞をもらったのかな、と思ったという。

今回の受賞について指導した佐藤先生(国語担当)は、「今まで何人もの中学生の読書感想文を指導してきて、千葉県展までは行くことが何度かありましたが、その上の全国大会への出展ははじめて。それだけでも大変なことですが、今回は毎日新聞社賞までいただき、口では言えないほどの名誉と感激です」

「読書感想文では戦争を題材にしたものは紋切り型

の感想文になりやすく、子供たちにはあまり勧めません。でも今回の阿部さんの文章は『これなら』と直感しました。戦争というテーマを扱いながら、初めて読んだ小学二年生のときと、改めて中学生になって読んだ彼女の成長と感じ方がよく表現されていました」

「将来の夢はもちろん作家?」と聞いたが、「小学校4年生の時、作家になりたいという夢をもっていたけれど、今は他にもやりたいことが沢山あり迷っています。だけと何となく『創る』ことには関心があります」

少し質問を変えて「安定した人生と、波瀾万丈の人生とどっちを選ぶ」と聞くと、これは即座に「波瀾万丈」と答えた。「派手にいきたい」そうだ。

インタビューしていて、考え込んで答えに迷ったりということの全くない中3生だった。 【松村】



打瀬中国語科研究室横に展示される学校賞の賞状と
牧神をかたどったブロンズ像。

3/11
(土)

寺子屋手芸教室
「小さい花を作りましょう」
時間：9:30～
会場：ペイタウン・コア
工芸室

ヤクルトの空きビンに毛糸を巻いて、花をさします。3月1日にコアに見本を展示します。

参加費：100円

人数：30人までです

3/18
(土)

わくわくおはなし会
時間：10:30～
会場：ペイタウン・コア
工芸室

楽しいおはなし会を目指しています。

みなさんのご参加お待ちしております。

3/25
(土)

寺子屋工作ランド
内容未定
時間：9:30～
会場：ペイタウン・コア
工芸室

工作の内容はまだ決まっていますが、楽しい工作を考えています。

「第9回ペイタウンまつり」は5月13日(土)に開催されることが決定しました。実行委員会は今月26日に発足。詳細は4、5月号でお知らせします。

3/19
(日)

第38回
ファツィオリの会
時間：9:30～11:30
会場：ペイタウン・コア
音楽ホール

音楽愛好会が、街の皆様にご協力いただき、コアのホールでファツィオリを弾いていただいたり、楽器演奏・声楽・合唱などを楽しんでいただこうと、毎月第4週の日曜日に行なっていますが、今月は都合により、第3週の日曜日19日となります。どうぞお間違えのないようにお申し込み下さい。非公開も受け付けています。

見学は、お申し込みなしにご自由に出来ますので、どうぞお出掛け下さい。連絡先：阿曾 tel&fax 211-0273

メールアドレス kakuhito@mue.biglobe.ne.jp

出演申し込み締め切り：3月12日(日)

2006 ジャパンスポーツスタッキングチャンピオンシップ

日時：3月19日(日)

9:45~10:15 登録確認・自主練習

10:15~15:00 競技大会

場所：打瀬中学校 体育館

参加費：¥1,000

参加者登録方法：スピードスタックスジャパンにEメール・電話にて受付。又は、ペイタウンスタッカーズクラブ開催時に直接いらして登録して下さい。

締め切り：3月17日

尚、スタッカーズクラブ開催日は3月3・10・17日です。

参加者資格：スポーツスタッキング経験者

年齢資格：選手の年齢制限なし

日本初となる大会の運営に、沢山のボランティアの助けが必要となります。ボランティアとしてお手伝い頂ける方も募集しております。

主催：WSSA ジャパン(世界スポーツスタッキング協会 日本支部)

後援：スピードスタックスジャパン

TEL:043-213-0321

E-mail:info@speedstacks.jp

URL:www.speedstacks.jp